

開会の挨拶

淡 路 敏 之（京都大学理事・副学長／教育担当）

皆さん、こんにちは。本来は総長の松本がご挨拶を申し上げるところでしたが、急遽所用ができまして、代わって教育担当の淡路の方から一言ご挨拶を申し上げます。

年度末の大変お忙しいところにご参席いただき、どうもありがとうございます。このフォーラムも重ねて19回ということで、大学教育のエンジンである教員力、教育力の向上、さらにはしなやかな適応力の養成に向けて、PDCA的に取り組んでおられることに敬意を表します。

本学は、研究型大学であると自負しておりますが、教育面では学生が研究の最前線に触れつつ学びの志を活性化させ、それをベースに学んだことを深掘りし、つなぎ、発展させていくという対話交流型の自学自習を重視しています。研究は教育の一環であるという立場で教育に取り組んでいるという表れであるにご理解ください。

時代を見据えつつこのような教育を発展させるために、現在、大学院教育ならびに学士課程教育の改革に取り組んでおります。とりわけ、大学院では博士課程リーディングプログラムを開始しています。これは俯瞰力を付けることに力点が置かれた大学院教育プログラムでございますが、本学では俯瞰力というよりは、スペクトル分布をした専門性を持つ高度な人材を育成するという観点で、大学院教育改革の柱として取り組んでいるところでございます。また、学士課程教育では4年一貫の質保証に向けて、教養と専門のベストミックスを再構築しようとしております。その一つとして、国際高等教育院を4月1日から立ち上げる予定です。

さらに、学部・大学院における学位プログラム、特に横断的な学位プログラムを拡充することについても鋭意検討しております。また、学士課程における教育コースと連動した、望ましい学生の判定方法等についても統計解析等も駆使した入試開発も行っているところです。

今回のテーマは主体的な学びということで、これは古典的なテーマですが、今回再訪（revisit）されるということは、それなりの時代的背景があると推察します。主体的な学びの主人公は学生ですので、学生が魅力を実感できる実効的なご提言をこのフォーラムからいただければと期待しております。

本日はどうもありがとうございました（拍手）。

（松下） 淡路理事、ごあいさつ、どうもありがとうございました。